

一般社団法人日本アレルギー学会
平成29年度 事業報告書
(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

I. 会員の異動状況

1) 正会員

平成29年3月31日現在	11,166名
平成30年3月31日現在	11,469名
増減数	303名(増)

内訳	新入会員	675名
	除退会員	349名
	物故会員	23名

役員(理事・監事)、代議員

平成29年3月31日現在	理事20名	監事3名	代議員350名
平成30年3月31日現在	理事20名	監事2名	代議員350名
増減数	0名	1名減	0名

2) 名誉会員

平成29年3月31日現在	38名	(内 国際名誉会員 2名)
平成30年3月31日現在	37名	(内 国際名誉会員 2名)
増減数	1名減	

3) 賛助会員

平成29年3月31日現在	30社
平成30年3月31日現在	30社
増減数	0社

II. 事業の状況

1. 学術大会、講演会等の開催(定款 第4条 第1号)

1) 第66回日本アレルギー学会学術大会

会期:平成29年6月16日(金)、17日(土)、18日(日)

会場:東京国際フォーラム(東京)

参加者数:6,127名

特別演題:105題(会長講演、会長特別企画8、特別講演3、招請講演13、教育講演16、特別シンポジウム1、シンポジウム23、WAO-JSAシンポジウム3、メディカルパートナーのための講座3、教育セミナー24、イブニングシンポジウム8、東アジア・アレルギーシンポジウム(EAAS)2、EAAS Keynote Lecture 1、医師支援セミナー)

一般演題:577題(ミニシンポジウム299題、ポスター278演題)

English Session:48題(Oral 38題、Poster 10題)

(アレルギー66巻4・5号に要旨掲載)

2) 第4回総合アレルギー講習会

会期:平成29年12月16日(土)、17日(日)

会場:パシフィコ横浜会議センター(横浜)

事前登録者数:1,997名(会員1,662名、非会員335名)

当日参加者数:1,861名(会員1,595名、非会員266名)

講義数:56(講義26、教育セミナー11、イブニングシンポジウム5、実習1)

2. 学会誌、ガイドライン、その他の刊行物の発行（定款 第4条 第2号）

- 1) 和文誌「アレルギー」 66巻3号～10号(4・5号は合併号)、67巻1～2号 年9回発行
発行日 66巻3～10号(5、7、8、9、11、12月各1日) 4・5合併号(5月15日)、
67巻1～2号(2、3月毎月1日)
発行部数 66巻4・5号(合併号) 冊子 約11,000部 及びオンラインジャーナル
66巻3号～67巻2号(通常号) 冊子 約10,900部 及びオンラインジャーナル、
電子書籍KaLibに掲載
- 2) 英文誌「Allergology International」 第66巻3～67巻2号 年4回発行
発行日 2017年7月、10月、2017年1月、4月 Supplement2017年9月
(Supplementはオンラインのみ。通常はオンラインジャーナルと冊子体)
発行部数 冊子体1,500部を発刊、希望者のみに配本している。
エルゼビアのScience Direct及びJ-stageにオンラインジャーナル掲載

3. 専門医、指導医、教育研修施設等の認定（定款 第4条 第3号）

- 1) 専門医の認定
今年度専門医申請者 220名
平成29年12月6日 資格審査委員会にて書類審査 受験有資格と判定 220名
平成30年1月28日 資格認定試験 受験者 220名 欠席2名
平成30年2月24日 資格判定会議(専門医制度合同委員会)
試験合格者 165名を専門医に認定(合格率 75.69% 平均 74.09点)
- 2) 指導医の認定
今年度指導医申請者31名について、資格審査委員会にて随時審査。
平成29年度指導医25名、平成30年度指導医 6名を認定。
- 3) 教育研修施設の認定
今年度申請施設 80施設について、資格審査委員会にて随時審査。
平成29年度認定 教育研修施設 30科、準教育研修施設 13科を認定。
平成30年度認定 教育研修施設 27施設(科)、準教育研修施設 10施設(科)を認定。
- 4) 専門医の更新認定
今年度専門医更新対象者 601名、申請者 502名。指導医からの更新10名
平成30年2月24日 資格判定会議(専門医制度合同委員会) 合格者 502名を認定。
該当事者7名が指導医に申請して認定された。
- 5) 指導医の更新認定
今年度指導医更新対象者 117名、申請者 94名。
平成30年2月24日 資格判定会議(専門医制度合同委員会) 合格者 94名を認定。
- 6) 教育研修施設の更新認定
今年度教育研修施設更新対象 117科、申請 103科。
平成30年2月24日 資格判定会議(専門医制度合同委員会) 合格 102科を認定。
今年度準教育研修施設更新対象 34、申請26科。
平成30年2月24日 資格判定会議(専門医制度合同委員会) 合格 26科を認定。

4. 研修及び教育の実施（定款 第4条 第4号）

- (1) 専門医教育セミナー
 - 1) 第51回 平成29年6月18日 会場 東京国際フォーラム(東京) 参加者326名
 - 2) 第52回 平成29年8月20日 会場 J Pタワー(東京) 参加者431名
- (2) 専門医制度集中研修(第10回相模原臨床アレルギーセミナー:共催)
平成29年8月4日～6日 会場 パシフィコ横浜アネックスホール 参加者261名

5. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 第4条 第5号）

- 1) 2017年度海外研究留学助成金
学会誌および学会ホームページにて公募、応募者5名について選考、下記4名に決定した。
〔受賞者〕(五十音順、所属は応募受付時)
野澤 智(横浜市立大学大学院医学研究科発生成育小児医療学)

野山和廉（岡山済生会総合病院耳鼻咽喉科）
正木克宜（慶應義塾大学医学部呼吸器内科）
三井千尋（国立病院機構相模原病院臨床研究センター／アレルギー科）

2) 2017年度（第14回）日本アレルギー学会学術大会賞

平成29年度本学会学術大会（第66回学術大会）で発表された研究業績を対象として学会誌および学会ホームページにて公募、応募者9名について選考、下記4名に決定した。

〔受賞者〕（五十音順）

伊藤 崇（千葉大学医学部附属病院アレルギー・膠原病内科）

「IL-22 は気道上皮からの Reg3 γ の産生を誘導し、チリダニ誘導性アレルギー性気道炎症を抑制する」

岩本和真（広島大学病院皮膚科）

「アトピー性皮膚炎由来の黄色ブドウ球菌と皮膚免疫の解析」

佐藤和秀（名古屋大学高等研究院/名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座呼吸器内科学）

「Development of the method for local immunotherapy; practical manipulation of the local immune system with near-infrared light」

松井照明（あいち小児保健医療総合センターアレルギー科）

「ビタミンD欠乏による食物感作の促進と食物アレルギーの増悪に関する検討」

3) 2017年度臨床研究支援プログラム

学会員が行う臨床研究の推進や将来の研究のスタートアッププログラムとしての支援のために設置された。2017年度は、新規応募への応募者20件の内3件、継続応募への応募者3件の中から2件が受賞した。研究推進委員会の審査を経て、理事会承認を経て決定した。

（新規応募分）

① 代表研究者：福永興老（慶應義塾大学医学部呼吸器内科）

研究課題名：Artificial Intelligence (AI) を用いた新規喘息診断およびフェノタイプ分類法の検討

② 代表研究者：千葉貴人（九州大学病院皮膚科）

研究課題名：健常人とアトピー性皮膚炎におけるエクオール産生能の違いを明らかにする

③ 代表研究者：神尾敬子（九州大学病院呼吸器科）

研究課題名：multiplex PCR を用いた、気管支喘息および慢性計測製肺疾患の急性増悪と human metapneumovirus 感染症との関連性の検討

（継続応募分）

① 代表研究者：檜澤伸之（筑波大学医学医療系呼吸器内科）

成人喘息における増悪関連フェノタイプの検討-多施設共同による観察研究-I

② 代表研究者：藤枝重治（福井大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）

アレルギー性鼻炎の疫学調査（PFAS 遺伝子解析・細菌叢解析）

6. 関連学術団体との連絡及び協力（定款 第4条 第6号）

- 1) 内科系13学会協議会関連：新・内科専門医制度移行に伴う内科系関連13学会協議会（第15～16回）に参加。
- 2) 公益財団法人日本アレルギー協会との連携協力：第66回学術大会共催。同協会主催「アレルギー週間」（平成30年2月17日～23日）を後援。
- 3) 内科系学会社会保険連合：アレルギー関連委員会運営団体として社員総会・運営委員会に参加。内保連例会及び呼吸器関連委員会に委員参加。平成30年度診療報酬改定に向けての医療技術評価や再評価の提案を関係学会とも共同で実施。
- 4) 日本医学会：評議員会、臨床部会、医学用語委員会等に委員派遣、分科会としての活動に参加。
- 5) アナフィラキシー啓発担当医育成プラン活動を継続し、他学会の学術集会等にアナフィラキシー対策特別委員会より専門医師を派遣し、2017年は2会場で講演を行った。
- 6) 日本医師会：女性医師支援事業に継続して参加。第4回総合アレルギー講習会において『未来を拓く男女共同参画』と題する講演会を日本医師会と共催。また、託児利用者を対象としたキッズツアーを開催。

- 7) 日本医療安全調査機構：診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業の協力関係学会として、全国7ブロックの責任者・評価委員を推薦、協力体制をとっている。事業の全国展開により、本学会は一般社団法人日本医療安全調査機構の社員に加入、負担金を拠出。
- 8) 災害時の対応、支援活動に関するワーキンググループが中心となり、日本アレルギー協会と連携し、日本小児アレルギー学会の協力を得て、災害派遣医療スタッフ向けアレルギー疾患対応マニュアル(暫定版)を再編集し、発刊した。

7. 国際的な研究協力と交流の推進 (定款 第4条 第7号)

1) English Session 2017

第66回日本アレルギー学会学術大会(2017年6月16-18日)におけるEnglish Sessionのプログラムを学術大会委員会とともに企画し、開催した。講演者総数：50名

2) World Allergy Organization(WAO)との活動

・WAO House of Delegates (2018-19)

日本アレルギー学会から3名の代表を登録(国際交流委員会委員長、副委員長、担当理事)

・WAO Board of Directors, 各種Committee Council

本学会会員が参加し、世界のアレルギー研究者の活動に積極的に参加。

・AAAAI/WAO Joint Congress 2018

AAAAI(American Academy of Allergy & Immunology)とWAO(World Allergy Organization)が共同主催する大会において、日本アレルギー学会の主催のシンポジウムが開催された。開催場所：Orlando, Florida, USA 日程：2018年3月2-5日 講演者(座長含)として5名参加

・World Allergy Week 2017

2017年4月2-8日は世界アレルギー週間で、2017年のテーマはThe Agony of Hives - What to do when welts and swelling do not go awayであった。メール配信にて会員あて案内をした。

3) East Asia Allergy Symposium 2017 (EAAS2017)

EAAS2017は日本アレルギー学会が担当し、第66回日本アレルギー学会学術大会において開催された。開催場所：東京国際フォーラム； 日程：2017年6月16日；日本からの講演者(座長含)として4名参加

4) Kenji Mano Travel Grant

2017年度受給者は次のとおり。

* EAACI Congress 2017, 17-21 June 2017, Helsinki, Finland

吉川知伸、清水麻由、柳瀬雄輝(3名)

* AAAAI/WAO Congress 2018, 2-5 March 2018, Orlando, FL, USA

村井宏生、意元義政、山本貴和子、山出史也、江尻勇樹(5名)

8. 普及啓発活動 (定款 第4条 第8号)

1) 市民公開講座開催

日時：平成29年6月25日(日) 13:30~15:30 (Ustreamライブ配信)

会場：ベイシア文化ホール 小ホール

テーマ：ここまで進んだ!アレルギーの治療と対策 参加者：294名

2) 学会Webサイトの一般向けコンテンツ

・アレルギーに関する用語やアレルギーの解説、病気についての解説・Q&A等の掲載。

・本学会専門医の検索サイト掲載(都道府県、専門、氏名、病院名で検索)。

・関連機関からの一般市民向けの公開講座、患者会からの情報等掲載。

9. その他目的を達成するために必要な事業 (定款 第4条 第9号)

・アレルギー免疫療法の推進

アレルギーの標準化整備事業を推進。公募にて決定した協力企業と連携で、診断と治療のための抗原の開発、免疫療法の啓発・普及に取り組んでいる。

ダニアレルギーにおけるアレルギー免疫療法の手引き(改訂版)発行

Ⅲ. 会議等

理事会・社員総会

1. 第31回常務理事会（第32期 第9回）
日時：2017年6月15日（木）15:00～16:00
場所：パレスホテル東京 4階 撫子
出席：理事長、常務理事3名
2. 第24回理事会（第32期 第9回）
日時：2017年6月15日（木）16:30～18:30
場所：パレスホテル東京 2階「萩」
出席：理事長、理事18名、監事3名、陪席1名
3. 第8回社員総会
日時：平成29年6月16日（金）18:45～20:45
場所：東京国際フォーラム ホールB7(2)
出席：社員288名（委任状出席118名含）、監事2名、陪席28名
4. 第25回理事会（第33期 第1回）
日時：2017年7月3日（月）18:00～20:00
場所：日本アレルギー学会会議室
出席：理事長、理事18名、監事2名
5. 第32回常務理事会（第33期 第1回）
日時：2017年8月31日（木）18:00～20:00
場所：日本アレルギー学会会議室
出席：理事長、常務理事3名、陪席1名
6. 第33回常務理事会（第33期 第2回）
日時：2017年9月27日（水）16:30～17:30
場所：日本アレルギー学会会議室
出席：理事長、常務理事5名
7. 第26回理事会（第33期 第2回）
日時：2017年9月27日（水）18:00～20:00
場所：日本アレルギー学会会議室
出席：理事14名、監事1名
8. 第34回常務理事会（第33期 第3回）
日時：2017年12月15日（金）15:00～16:00
場所：パシフィコ横浜会議センター2F(211+212)
出席：理事長、常務理事5名、オブザーバー1名
9. 第27回理事会（第33期 第3回）
日時：2017年12月15日（金）16:30～18:30
場所：パシフィコ横浜会議センター 2F 211+212
出席：理事長、理事19名、監事1名、陪席3名
10. 第35回常務理事会（第33期 第4回）
日時：2018年3月15日（木）15:30～17:30
場所：日本アレルギー学会会議室
出席：理事長、常務理事4名、オブザーバー1名
11. 第28回理事会（第33期 第4回）
日時：2018年3月15日（木）18:00～20:00
場所：日本アレルギー学会会議室
出席：理事長、理事15名、監事1名、陪席1名

各種委員会

○和文誌「アレルギー」編集委員会（平成29年6月17日、10月13日）

学術情報誌として内容の充実を図り、読者を意識した誌面作りを目指している。（学術大会特別演題演者からの「綜説」、「専門医のためのアレルギー学講座」は総合アレルギー講習会のテーマを基本に2号ずつシリーズを構成、「ガイドラインのワンポイント解説」は常に新しいガイドライン情報を提供する（年8編）、「アレルギー用語解説シリーズ」（専門医を目指す会員が知っておくべきレベルの用語解説を基本とし毎号3編）掲載、「私のアレルギー史」は名誉会員に寄稿を依頼（年1編程度））。学会 Web サイトでは印刷誌発刊と同時に J-STAGE を利用したオンラインジャーナルを発行し、電子書籍 KaLib にも掲載。メディカルオンラインにて順次全文収載。

- 2016年10月よりオンライン電子投稿査読システム (ScholarOne) 運用を開始。
アレルギー編集事務局会議を平成29年9月1日、平成30年3月9日に開催した。
- 英文誌「Allergology International」編集委員会 (平成29年6月18日、12月7日)
日本アレルギー学会英文誌 Allergology International は、出原賢治編集委員長の下、順調に刊行されている。オンラインジャーナルはエルゼビアのScience Directより発行。冊子は、希望する会員のみ配布 (発行1500部) している。2016年インパクト・ファクター (IF) は3.194であった。2017年の投稿総数は303であった。
 - 長期計画委員会 (平成29年6月17日)
長期展望に立った学会の在り方について、理事長諮問事項について検討を行っている。
学術大会事務局の学会本部移行・学会主体の運営体制、専門医制度の検討、アレルギー疾患対策基本法の活用策、学会員の増加策について等の検討。
 - 広報委員会 (平成29年6月16日、7月26日、8月23日、9月20日、11月24日、12月15日、平成30年年1月24日、2月28日、3月28日 Web編集専門部会 平成29年6月16日 啓発活動専門部会平成29年12月メール審議)
学会新Webサイト構築に関する協議
 - 総務委員会 (平成29年4月、平成30年3月)
平成29年度事業報告書案、平成30年度事業計画書案の検討。
 - 財務委員会 (平成29年4月、平成30年3月)
平成29年度決算書作成、平成30年度予算案の検討。
 - 定款・細則検討委員会 (メール審議：平成29年12月、平成30年2月、3月)
学術大会運営細則・内規の新設、会員規程・総合アレルギー講習会規程・総合アレルギー講習会実行委員長選任細則の改正の検討
 - 推薦委員会
研究助成、外部賞の公募情報について、学会Webサイト、学会誌で会員に告知した。
 - 倫理委員会 (日本医学会関連：平成29年5月8日、メール審議)
 - *利益相反 (COI) 委員会 (平成29年2月9日)
日本アレルギー学会 COI 共通指針について検討した。
 - 専門医制度関係
 - *資格審査委員会 (平成29年12月6日)
平成30年度認定専門医申請者の書類選考を行い、申請者220名全員の受験資格を認めた。
 - *試験問題作成委員会 (平成29年8月6日、11月5日)
平成30年度試験問題の作成、試験当日の時間配分、試験監督の選出等について検討した。
 - *教育研修委員会 (平成29年11月16日)
第53回専門医認定教育セミナープログラム、講師を決定した。司会は岩永賢司教育研修委員、白井敏博同委員に決定した。
第54回専門医認定教育セミナープログラム及び講師を決定した。
 - *新専門医制度対策特別委員会 (平成29年8月8日 メール審議：10月12日、11月13日)
新専門医制度研修開始時期や、「アレルギー専門医制度の理念及び領域専門医の使命」等について検討した。
 - *専門医制度・資格審査・教育研修 合同委員会 (平成30年1月25日)
臨床アレルギー講習会の出席単位及び座長・発表 (筆頭) 単位、専門医制度規程の一部改正、国際喘息学会への出席単位及び座長・発表 (筆頭) 単位について検討した。
 - *平成30年度専門医試験 (平成30年1月28日) を実施。
 - *内科系13学会協議会関連
新専門医制度移行に伴う内科系関連13学会協議会 (平成29年8月7日、平成30年3月20日) に参加
 - 国際交流委員会 (平成29年6月16日、平成30年1月31日)
 - *English Session2017 (第66回日本アレルギー学会学術大会 (2017年6月16-18日) における English Session のプログラムを学術大会委員会と共に企画し、開催した。
 - *East Asia Allergy Symposium 2017 (EAAS2017) を担当し、第66回学術大会にて開催
 - *World Allergy Organization (WAO) 活動への参加
 - *EAACI International Society Council 活動への参加
 - *Kenji Mano Travel Grant 授賞者の検討

- 研究推進委員会（平成29年6月16日、平成29年11月28日）
会員を対象とした2017年度日本アレルギー学会研究支援プログラムに新規20件、継続3件の応募があり、審査の結果新規3件、継続2件の受賞者を選考した。
- アレルギー・免疫療法委員会（平成29年6月17日）
アレルギー免疫療法についての課題やSCIT/SLIT実施医師の学術環境整備を目的とした講習会やシンポジウムの開催を検討
ダニアレルギーにおけるアレルギー免疫療法の手引き（改訂版）を発行した。
- 学術大会委員会（平成29年6月16日、8月10日、9月25日、平成30年2月13日）
学術大会プログラム編成等について会長に提言、不採択演題の最終判定、発表演題の各種問題検討、会長と共に学術大会を総括的に推進。学会主導（学術大会委員会、学会事務局）の学術大会運営に関与する。
- 総合アレルギー講習会実行委員会
*第4回総合アレルギー講習会実行委員会（平成29年8月28日、10月23日、12月4日）
第4回講習会について開催概要、講義・実習プログラムのテーマ、座長、講師の選定、内容の検討、作成、当日の運営確認、総合アレルギー講習会規程、委員長選任細則の一部改正を検討した。
*第5回総合アレルギー講習会実行委員会（平成30年1月15日、3月30日）第5回講習会の運営会社選定、開催概要、プログラム内容、座長・講師等を検討した。
- 学術賞選考委員会（平成29年11月7日）
2017年度海外研究留学助成金応募者の募集、選考を行い、受賞候補者4名を選出。
第14回学術大会賞応募者の募集、選考を行い、受賞候補者5名を選出。
- アレルギー疾患ガイドライン委員会（平成29年6月15日、12月15日）
英文ガイドラインの発行、「喘息予防・管理ガイドライン2018」「アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2018」の編集・制作の検討
- 医療問題検討委員会
メール審議：「医療用ヘパリン類似物質製剤の美容目的処方等に関連する問題」について
*診療報酬検討委員会
平成30年度診療報酬改定提案書を提出、内科系学会社会保険連合会（内保連）の活動に参加した。
- 男女共同参画委員会（平成29年6月18日、11月21日）
第66回学術大会においてメンター&メンティ相談会と医師支援セミナー、第4回総合アレルギー講習会では日本医師会支援によるランチセミナーを開催した。第2回男女共同参画奨励賞において受賞者を選考した。

[特別委員会]

- Anaphylaxis 対策特別委員会
 - 1) 日本アレルギー学会教育研修施設におけるアナフィラキシー治療症例の多施設集積研究
 - 2) アナフィラキシー啓発担当医育成プランに基づく講演会（2学会で実施）
 - 3) アレルギー啓発サイトを制作・公開した。
- 基礎研究推進特別委員会（平成29年6月17日、10月27日）
基礎分野会員増員を図るための施策を検討する。第67回学術大会会長企画における「Meet the Professors」を企画
- アレルギー疾患対策基本法特別委員会
アレルギー疾患対策基本法に則した施策の検討、厚生労働省助成事業等の実施。
- 災害時の対応、支援活動に関するワーキンググループ
日本アレルギー学会と日本アレルギー協会が連携し、専門医以外でも災害地域の医療スタッフが活用できる「災害派遣医療スタッフ向けアレルギー疾患対応マニュアル」を発刊。